

IV. 成績評価について

1. 評価区分

各科目ではシラバスに記載されている方法で成績評価を行います。

本学では成績の評価をS、A、B、C、D、E、Fとし、S、A、B、Cを合格、Dを不合格、Eを認定、Fを放棄としています。

※合格した授業科目については、所定の単位が与えられます。

2. 成績通知

成績は、ポータルサイト上で通知します。

3. 再履修

単位の修得が認められなかった授業科目は、次年度以降に再履修することができます。

ただし、当該科目の授業時間に他の授業科目が開講されて、再履修が困難となる場合もあります。
できるだけ再履修をしないで済むよう努めてください。

4. GPA（グレード・ポイント・アベレージ）制度

総合的な成績評価方法として「GPA（グレード・ポイント・アベレージ）制度」を導入しています。

グレードポイント（GP）とは、基礎ゼミを除いた履修科目の成績（点数）に応じて与えられるポイントです。

このポイントに各科目の単位数（1単位、2単位など）を掛け合わせて得られた数の合計を、履修科目の単位数の合計で割ったものがGPAです。

数式で表すと、次のようになります。

$$\text{GPA} = ([\text{GP} \times \text{単位数}] \text{の合計}) \div (\text{履修科目の単位数の合計})$$

不合格及び履修放棄の科目もGPA算出対象になります。

GPA制度は

- ①学修状況を自己評価する目安とすること
- ②学修の成果をより明確に表すこと
- ③履修登録に責任をもつこと

を目的としています。

※高等教育無償化（授業料等減免、給付奨学金）の申請や継続などにも利用されることがあります。

V. 本学が求める学修成果

1. アセスメントプランの目的

アセスメントプランは、建学の精神「優れたQOLサポーターの育成」を達成するために策定された3ポリシーに基づき、機関レベル（全学）、教育課程レベル（学部・学科等）、科目レベル（授業）の3段階で学修成果を点検・評価するとともに、これらの結果を活かして教育活動の改善につなげることを目的としています。

そのため、各学部・学科等において展開している教育活動についても、その質の保証と向上を図ることを目的として、3つの方針（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー）に基づいて学修成果を点検・評価し、その結果を教育内容や教育方法、学修指導などの改善につなげます。

2. アセスメント対象と指標（具体的な検証方法）

アセスメントは以下の基本構成で行い、必要に応じて各指標を相互に関連させて実施します。また、機関レベルの評価は、教育課程レベルと科目レベルの各指標を基にして多面的・総合的に評価します。

アセスメント対象		アドミッションポリシーの適切性 （※は学科選択）	カリキュラムポリシーの適切性	ディプロマポリシーの適切性 （※は学科選択）	3ポリシーの整合性 （※は学科選択）
指標	機関レベル（全学）	大学の基本理念・目的との整合性 ・学生の受入れ、受入れ方法の適切性	大学の基本理念・目的との整合性 ・教育課程の適切性 ・学修・教育成果の評価 ・教育課程の体系性・一貫性 ・教育方法の適切性 ・学修支援・施設・設備の適切性	大学の基本理念・目的との整合性 ・教育課程の適切性 ・学修・教育成果の評価 ・教育課程の体系性・一貫性 ・教育方法の適切性 ・学修支援・施設・設備の適切性	大学の基本理念・目的との整合性 ・教育課程の適切性 ・学修・教育成果の評価 ・教育課程の体系性・一貫性 ・教育方法の適切性 ・学修支援・施設・設備の適切性
	教育課程レベル（学部・学科等）	選抜機能 ・入学試験 ・高校の学習成績の状況（評定平均値）※ ・プレイスメントテスト ・GPA ・出席率（要確認） 入学前教育の有効性 ・新入生調査 ・入学前教育プログラム	成績評価の適切性 ・GPA 設計・実行の適切性 ・カリキュラムマップとシラバスの検証（GPA、各科目の成績分布、学修ポートフォリオでの到達目標に対する自己評価結果等と合わせて実施） 学修成果の適切性 ・習熟度試験 ・学生生活調査 ・社会貢献活動参加率 ・連携総合ゼミ履修率 ・国際交流活動参加率	学修成果の適切性 ・DP到達度評価 ・卒業時実態調査 ・GPA※ ・国家試験・資格試験合格率※ ・卒業研究・臨床実習の成績分布※ ・社会貢献活動参加率 ・連携総合ゼミ履修率 ・国際交流活動参加率 DPおよび学修成果の評価の適切性 ・病院施設および一般企業意識・満足度調査	成果からのアセスメント ・標準修業年限卒業率 ・就職率・大学院進学率 ・国家試験・資格試験合格率※ ・卒業時実態調査 プロセスからのアセスメント ・休学率（要確認） ・退学率
	科目レベル（授業）		成績評価の適切性 ・各科目成績分布 ・GPA 設計・実行の適切性 ・単位授与率（要確認） ・出席率（要確認） 学修成果の適切性 ・授業評価アンケート		

3. 評価の基準

(1) 各科目の成績評価

- ・各科目ではシラバスに記載されている方法で成績評価を行います。
- ・成績の評価は、S、A、B、C、D、E、Fとし、S、A、B、C、Eを合格、D、Fを不合格としています。
- ・合格した科目については、所定の単位を授与します。

評価区分	評価の基準	評点の範囲	合格・不合格
S	達成目標を極めて高い水準で達成している。	90点～100点	合格
A	達成目標を高い水準で達成している。	80点～ 89点	合格
B	達成目標を標準的な水準で達成している。	70点～ 79点	合格
C	達成目標を最低限の水準で達成している。	60点～ 69点	合格
D	達成目標を達成していない。	0点～ 59点	不合格
E	単位を認定した科目	—	合格
F	履修を放棄した科目	—	不合格

(2) 総合的な成績評価

- ・総合的な成績評価は、GPA（Grade Point Average）を用いて評価します。
- ・GPAは、以下のように換算されます。

評価区分	評価の基準	評点の範囲	合格・不合格	GP
S	達成目標を極めて高い水準で達成している。	90点～100点	合格	4
A	達成目標を高い水準で達成している。	80点～ 89点	合格	3
B	達成目標を標準的な水準で達成している。	70点～ 79点	合格	2
C	達成目標を最低限の水準で達成している。	60点～ 69点	合格	1
D	達成目標を達成していない。	0点～ 59点	不合格	0
E	単位を認定した科目	—	合格	—
F	履修を放棄した科目	—	不合格	0

- ・GPAは次の式により計算するものとし、詳細については『履修の手引き』を参照のこと。

$$\text{GPA} = ([\text{GP} \times \text{単位数}]) \text{の合計} \div (\text{履修科目の単位数の合計})$$

(3) ディプロマポリシーの到達度評価

- ・ディプロマポリシー（DP）の到達度については、本学STEPSと紐づけされたDP項目と教育課程上の各科目の関連度を数値化し、単位修得科目分の数値を各教育課程のDP項目ごとに評価します。
- ・各学生の到達度は、図1の「学修ポートフォリオ」においてレーダーチャートを用いて可視化され、学生はDP到達度の自己評価を行うとともに、教員コメントによるフィードバックを受けます。

(4) 学位論文評価

- ・学位論文の評価は、学修ポートフォリオにおける到達度評価を利用して行います。
- ・各学位プログラムで定められている学位審査基準に基づき、すべてのDP項目に対し、DP到達度が「学位を授与するに値する資質・能力を満たしている」かを審査します。

(5) 卒業研究評価

- ・卒業研究が設定されている学位プログラムにおいて、学術的な意義、妥当性、主体性、共同性、倫理性等の観点から審査し、評価基準を満たした場合に、合格とします。詳細については、各学科での評価基準を参照のこと。

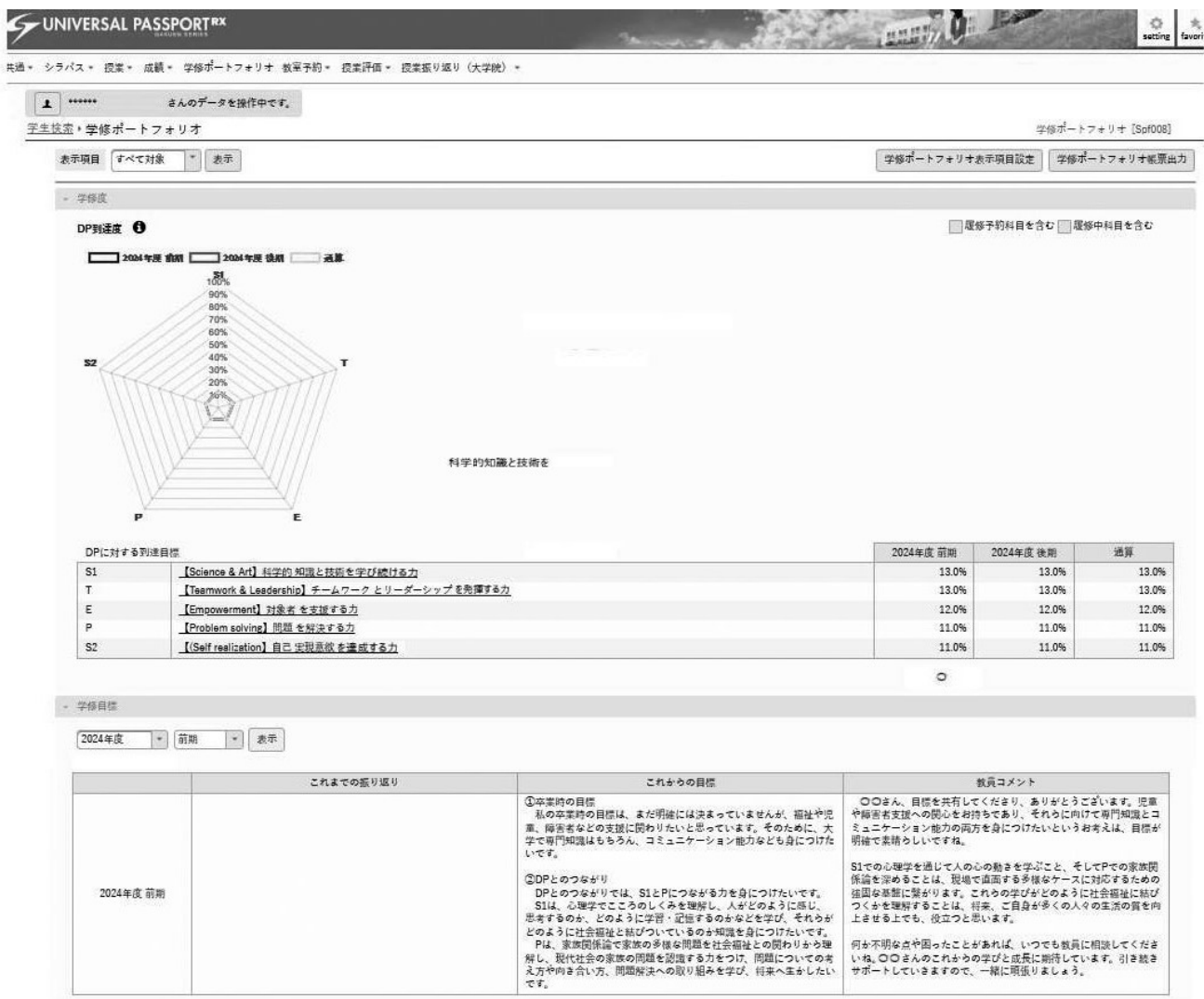


図1 「学修ポートフォリオ」によるDP到達度のイメージ図